

ブルーベリー（ラビットアイ系）の育て方

■植付け

鉢はできれば7号(上部直径21cm)以上をご用意ください。植えた後は特に水切れに注意してください。ブルーベリーは酸性の土(pH5.0前後)でよく育ちます。ブルーベリー専用の土を用いるか、市販培養土にpHを調整していないピートモスを混ぜて使用してください。

■管理

鉢で育てる場合、ブルーベリーは根詰まりしやすく、また、過湿にもなりやすいので2年ごとに土の入れ替えをおすすめします。

ラビットアイ系の品種は自家受粉しにくいいため、同じラビットアイ系の“別の品種”を近くに植え付ける(置く)ことで受粉しやすく、果実を多く収穫できるようになります。

■肥料

今回配布したブルーベリーの苗を鉢に植えたら、株から離れた鉢のへりに肥料を埋め込みます。株が若い成長期(1~3年)はあまり肥料をやり過ぎないように育て、3年目以降、収穫ができるようになったら、株の様子をみて肥料をあげるようにしてください。

《肥料の与え方 年間スケジュール》

2月の休眠期に肥料を与えます。(寒肥)

初夏、5~6月の生育が旺盛な時に追肥をします。7月中旬から8月いっぱいには肥料はやらず、実を収穫した後の9月にお礼肥えを施します。

肥料は市販の「ブルーベリーの肥料」をおすすめします。肥料によっては土がアルカリ性になる可能性があるためです。

■剪定

剪定は葉を落としている休眠期(12月から2月)が適期で、この時期の剪定を冬剪定といいます。

落葉期は株の形や枝振りを確認しやすく、作業もしやすいという利点があります。

【冬剪定】株をリフレッシュさせ、病気や害虫の発生を予防します。枝先に花芽が付くので、切り詰めません。

木が大きくなりすぎないように枝の広がりを抑え、枯れた枝や病虫害の被害を受けた枝を取り除きます。枝が混み合っているところや交差している部分を取り除き、木の中心部分の風通しを良くします。

【夏剪定】実の収穫が終わったらすぐに行います。

春に勢いよく伸びた新しい枝(幹や太い枝から上向きに勢いよくまっすぐに伸びた枝)を切り詰めて、大きくなりすぎないようにします。他の伸びすぎた枝も剪定します。切った枝の先に花芽ができるので、翌年の収穫に影響はありません。

■病気

うどん粉病、黒星病、灰色かび病、斑点病が発生することがあります。

■害虫等

アブラムシ、エカキムシ、ケムシ、アオムシ、ナメクジの害にあうことがあります。

中野区花と緑の祭典実行委員会